



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733

### 掲示板法話

## あなたと 不可思議光のこのいのち

## 生きなん今日も 拜んで燃えて



新年おめでとーごいいます。  
ウクライナの戦争は続き、新型コロナのウイルスも変異して居座り、「めでたさも中ぐらいなり」という雰囲気、「新年おめでとー」ことは、素直に思えない向きがあるかもしれません。

しかし、お正月の「正」という字は、立ち止まって一からまっさらな気持ちでスタートする、という意味があります。「このいのち生かされて、無事新年を迎えることができるのは、当たり前ではありません。三度、三度のお食事に出される魚や肉は、かれらの命を頂いているからであり、コメもパンも野菜も皆、自然界からのちを頂いている。だから「いただきます」と手を合わせて頂くのが念仏者の生き方でありましょう。

「当たり前」ではなく、「おかげさまだね」と気づかせて頂くのは、自己中の我々凡夫の身に、仏さまの不可思議の光が先に来て下さっているからです。  
冒頭のお歌は、医学博士で京都大学元総長・平澤興先生の詠まれたお歌で

(平澤興・元京都大学長)

す。先生は新潟県の御出身で、お念仏の教えを尊ぶおばあさんやお母さんとよくお寺参りされたそうです。大学で医学を学び、解剖学の権威(学士院賞受賞)となられました。が、「手の動き一つも実は完全には分からない不思議」がある。「勉強しているうちに、むしろ自分の愚かさで大自然の徹底的な偉大さを悟るのではないか」「知の極みは愚なり」と前門様との対談の中で言われました。

「だんだん年を取ると、分からん事ばかりになって、改めて大自然を見ると、分からんことが有難くなり、生きる希望を与えられる。…分からねば分からんほど面白くなり、忙しくなる」と言われる。それに前門さまが「歳をとるほど忙しくなる、というのは面白い表現ですね」と共感されました。

先生の「知の極みは愚なり」とは、親鸞聖人が自ら「愚禿・親鸞」と名乗られたのと軌を一にします。「いずれの行も及び難き身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし」(歎異抄・第2章)とまで

### ☆行事ご案内☆

#### ◇元旦会&御正忌報恩講お朝事◇

元旦会 1月1日午前9時より正信偈、住職新春法話

新年のスタートは家族揃って仏様にご挨拶!

※お朝事 1月13・14・15・16日毎朝7時

連続4日間のプチ修行、正信偈、住職法話、茶話会

◇除夜の鐘 12月31日夜11時45分より

誰でも撞けます。家族やお友達と撞きにきて下さい

◇5時の鐘撞き 地域の子供に開放、子供に心の教育を夕方5時の鐘撞きは年中無休、合掌して誓いを唱和ご褒美にガムやチョコ進呈、親子でお揃いでどうぞ!

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」大好評。開設14年5ヶ月で39万6千訪問、お悩み相談可、メール、電話、訪問可、即返信、

#### ◇新年度上半期主な行事

3月13日(月) 午前・午後 三重組十三日講

3月21日(日) 春季永代経十三日講後にて一日のみ

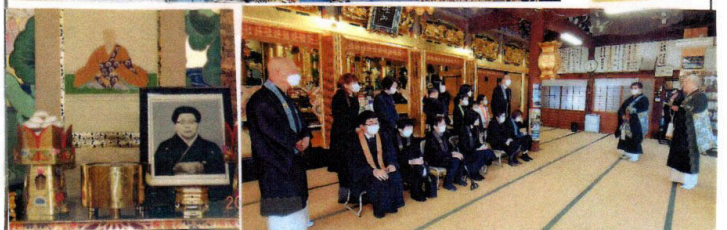
5月14日(日) 午前善正寺門信徒総会(予定)



2022.11.05 17.00

言われる親鸞さまの教えを仰ぎつつ、生き抜かれた先生でした。  
「生きなん今日も拜んで燃えて」というお元氣な生き方に励まされます。  
この一年、「不可思議光に照らされたいのち」を大切に生き抜きましょう。  
〔心の対話:大谷光真門主と各界の17人〕本願寺出版・1980、参照)

### ☆ 写真アラカルト ☆





### 坊守り

## 坊守スケッチ

# ネット社会の間



サッカーW杯カタール大会で、日本が思わぬ勝利を挙げて、日本中が大騒ぎをしました。サッカーに詳しくない私でも歓喜の渦に巻き込まれました。日本国民がこのように一つにまとまることは近年稀で、スポーツの偉大さを痛感します。

初戦で強豪ドイツを破った時には、大活躍の三重県出身浅野選手に、身内の手柄のように誇らしげに応援したサポーターの多さに驚きました。

しかし第2戦はコスタリカに敗戦。今度は掌を返したように、一部選手に非難が広がって「二度と日本に帰って来るな!」と、SNSで度を越した誹謗中傷が選手達を苦しめたそうです。

次のスペイン戦では歴史的勝利とお祭り騒ぎ。しかしベスト8をかけた試合に、世界2位のクロアチアが勝ちついに日本の敗退が決定しました。

明暗を分けた難局に、試合とSNSのプレッシャーを背負った選手達は、如何に立ち向かったのでしょうか?

それは、やるべきことを変えずに、一致団結して平常心で臨んだ結果、強豪国に逆転勝ちして、2回連続して決勝トーナメントに進出できました。

まさに栄光の頂点から、敗北のどん底に突き落とされ、再び勝利から敗北へと、まるで『超高速のエレベーター』に乗っているような心境です。

これはスポーツ界のみならず、競争の激しい社会ではありがちな現象です。一般人にはこのような激しい浮き沈みの人生を経験することは稀ですが、ネットを介して他人の失敗を罵り合うことは絶対避けたいものです。

ところで宗祖親鸞聖人は、諸人を率いる心なく、のしり叫ぶこともなく、驕り妬みの身を恥じて、静かに我を問う人でした。悲しみ迷う人々に、御同朋と呼びかけて同じ悩みを語り合い、いつも我を問う人でした。(米沢英雄作『その人』参照)

2023年春には、ご本山では親鸞聖人ご誕生850年、立教開宗800年のご法要が勤まります。

ネット社会の間に身を置く私達は、ご法要を機縁に親鸞聖人のお心に立ち返り、私のお粗末な心を照らす鏡を持ち、真実の眼を開きたいと思えます。

お悔み申し上げます

★森田三重子様(12月3日亡、93歳、西新地) 合掌

カンパありがとうございます

松岡康様、山中ツヤ子様、辻ひさる様、澤田美智江様、TS様、服部律子様、匿名さまよりもご報酬、感謝・合掌。

### 若坊守の子育て日記No.96

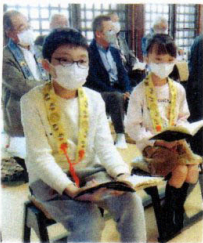
2022年はコロナが常に隣にあったような一年でした。以前のようになんか人と会えない、話せない中で、私の心に残った言葉を紹介します。

一つ目は、子供達の通う小学校のジャージの専売店のご主人の言葉です。ある日、長男のジャージの上着を買った日、お代を小銭でぴたりお支払いすると、「丁寧に支払い頂き、有難うございます」と言われました。

こんな風に謝意を表現できるのかと驚き、心のこもった接客に感動しました。高齢のご夫婦ですので、次回伺う時までお元気で、と心の中でエールを送りました。

二つ目は、五年生の長男の言葉です。二期の最中、突然、「学校ってやっぱり楽しいなあ!」と言ったのです。何がそう思わせてくれたのか、詳しくは聞きませんでした。そう思える事があつたということが喜ばしいです。誰もがコロナで窮屈な思いをし、不登校の児童が過去最多というニュースの時だったので、純粹に「学校が楽しい」という言葉を聞けて安心しました。

2023年という新しい年に、一つでも多く心温まる言葉に出会えることを願いたいものです。



### ホットニュース

※3月13日に三重組十三日講(初講)をお迎えする善正寺では、1月10日に新旧総代、世話方2名、住職計5名で、ご本山の報恩講にお志持参して三重組代表参拝の予定です。

### 俳壇

冬の星一番列車は人まばら 釋妙水  
山茶花や真つ赤な座布団敷いてをり  
姿の背に干す洗濯や冬日射し  
林道を横切る風音冬近し 釋榮邦  
秋の日の温もり背な庭仕事  
鯉遊ぶ逆さ紅葉の揺らめけり  
簪草こんもり丸く赤くなり 釋住安  
翹雲ペットボトルを手に散歩  
銀杏散り寺の境内染めにけり  
秋深し繁みに菊花そつと咲く 釋瑞華  
信濃路に寒さ来たりて紅葉燃ゆ  
芋の露空の青さを飲み込みし 釋普教  
かりがねや朋友の手づくり布草履  
寒空や駆け足記録会の笛 釋秀龍  
冬の空ドッジボールの硬さかな  
自転車のライトの淡し冬の月  
葉書来て計報の友を偲びけり 釋清風  
黄昏れて行く人なきに枯野かな  
第九ケツト夢に歓喜の声を聞く

### ☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」349号をお届けします。◇新年おめでとございます。◇インフレ、コロナ、戦争の行方などこの世の苦悩は尽きませんが、唯念仏のみぞ真実と思いつつ。ご愛読のほどを。



明けましておめでとうございます。昨年二月にロシアのウクライナ  
侵攻が始まり予想外の長期戦に心が痛みます。世界中が不穏な  
空気に包まれて心安らぐ日はありません。日々の出来事に一  
喜一憂しながら空しく峠を重ねる愚かさを反省しています。  
西本願寺では今年春に親鸞聖人ご誕生八百五十年、土教  
開宗八百年のご法要が勤まります。善正寺は五月二十日  
に団体参拝します。平安末期から鎌倉初期の九十年間  
生きられた親鸞聖人はどんな人物であったのか？その教え  
が今も受け継がれている理由を知らずして京都へ物見遊  
山で団体参拝するのでは意味がありません。米沢英雄作  
「その人の詩を通して親鸞様のお人柄に触れることのでき  
ました。聖人は諸人を率いる心がなく、他人をのり叫ぶこと  
もなく、驕りと妬みの身を恥じていました。悲しみ迷う人々  
に御同朋と呼び寄りて同じ悩みを語り合いました。いつも  
静かにわが身に問うていました。聖人は幼くして両親に別  
れ師と仰ぐ法然様とも生き別れ、一家は離散して諸国を  
放浪し、この世の片隅で静かに生きて魚の餌食にな  
りたいと言ってお往生されました。しかし親鸞様のみ名は  
無量の人の心に生き、無数の人に歡喜の光となつて  
真実の眼を開かしました。ご法要参拝を機縁と  
して、親鸞様の教えを学び、私自身の生き方を問う  
機会にしたいと思えます。今年もより一層精進します。そ  
で皆様の協力もろくくお願い申し上げます。合掌

令和五年一月

善正寺坊守 拝